

岐阜県地理唱歌歌詞（1番～34番）

1	わがぎふけん みの ひだ ひがし さかい ながのけん 我岐阜県は美濃と飛騨 東の境は長野県 にし かわふく いし きたやま 西は石川福井滋賀 南は愛知に北富山	18	いびがわのぼ いまおまち たけこうじ きゆうじようか 揖斐川上れば今尾町 竹腰氏の旧城下 おおがきく おな とうらい 大垣桑名の要路にて 便船常に往來す
2	めんせきはつびやくよほうり じんこうじゆうじゆうはちまんよ 面積八百方里に 人口九十八万余 めい かつし じゆう ぐん ひたさんぐん わか 美濃は一市に十五郡 飛騨三郡に分れたり	19	にし さかい しょうろうぐん な おうたき しちじようよ 西の境は養老郡 名に負う滝は七丈余 はる さくら かしら せき な 春は桜に秋紅葉 世に名を知らぬ人はなし
3	ぎふし みの せいなんぶ ひがし た きんかざん 岐阜市は美濃の西南部 東に立つは金華山 きた なが ながらがわ きふけんちよう こここ 北に流るる長良川 岐阜県庁は此処にあり	20	あなたに み しもいけ しゆうかいおよそいちり あなたに見ゆる下池は 周回凡一里にて ちようきよ さんしゆうおびただ いちりくたれ たかだまち 鳥魚の産出夥し 一里下れば高田町
4	きんかざん いちめい いなばやま とな 金華山は一名を 稲葉山とも称えられ いたたき いしづ せき せき その頂の礎は 齋藤氏の城の跡	21	たきみ きやく いえ さけ しょうろうしゆ 滝見の客の家づとに もとむる酒は養老酒 ぐん せいふ ときむら ときやますみ さんち 郡の西部の時村は 時山炭の産地なり
5	ながら かわ うかいぶね そのなしほう かが 長良の川の鵜飼舟 其名四方に輝きて み くひと かつし けい ふぜい 見に来る人の数知れず 実におもしろき風情なり	22	きた すす ふわごおり おものがたり いますむら 北へ進めば不破郡 寝物語の今須村 なかせんどう ひがし いちり せきがはら 中山道を東せば 一里はなれて関ヶ原
6	いなばじんじや けいだい さくらもみぢ 稲葉神社の境内は 桜楓をこきまぜて たき なが ひと た 滝の流れもいさぎよく もうずる人のあと絶えず	23	こここ なたかき こせんじよう しゆら ちまた ゆめ あと 此処は名高き古戦場 修羅の巷も夢の跡 めい せきしや あは せき 不破の関所も荒れ果てて 過ぎにし昔の様ならず
7	とうかいせん てつどう まち みなみ よこき 東海線の鉄道は 街の南を横切りて ちようきよ とうかい とうかい 東京神戸も唯一日 交通便利の都会なり	24	これ きしや う の ひがし い たるいちよう 是より汽車に打ち乗りて 東へ行けば垂井町 めいしやきゆうせきかす み の じゆ かわ 名所旧跡数おおく 美濃路是より分れたり
8	ちようちんうちわちりめん ゆとんやきものきいと 提灯扇縮緬に 油団焼物生糸など あゆ いゆだばえ もりくちつけ な たか なお鮎うるか筏鮪 守口漬の名も高し	25	みなみ み なんぐうさん そのほくろく みやしろ 南に見ゆる南宮山 其北麓の宮代に なんぐうじんじやちんさん み の くに いち みや 南宮神社鎮座せり 美濃の国なる一の宮
9	ぎふ みなみ かのうち いなばごおり うち 岐阜の南は加納町 稲葉郡の内にあり ちとなが いし じようが かわかざせいじゆうきかん 元永井氏の城下にて 傘製造盛なり	26	たるい い ほど ひだり み きんしやうざん 垂井を出でて程もなく 左に見ゆるは金生山 ふもと むら あかさか ここ めいぶつしきいく 麓の村は赤坂ぞ 此処には名物石細工
10	これ ひがしにり い かがみの 是より東二里ばかり 行けば各務野いとひろし なか りくぐんしやてきじよう ほうせいときどききこ 中に陸軍射的場 砲声時々聞ゆなり	27	しだい すす わがきしや あんばちごおり だいとかい 次第に進む我汽車は 安八郡の大都会 おおがきまち つ きふ さ およそごり 大垣町に着きにけり 岐阜を距ること凡五里
11	かがみの い うぬまむら なかせんどう しょうろ 各務野出づれば鵜沼村 中仙道の要路なり ほんぐん ほくぶ あくだみながらくるの なお本郡の北部には 芥見長良黒野あり	28	さすが とだし きゆうじようか ほうけんじだい さすがは戸田氏の旧城下 封建時代のかたみとて ぞら そび てんしゆかく いま おおがきこうえんち 空に聳ゆる天守閣 今は大垣公園地
12	かのう みなみいちりはん かさまつちよう はしまぐん 加納の南一里半 笠松町は羽島郡 しやうぎやうきかん きぬめりもの さんしゆつ 此処は商業盛にて 絹織物を産出す	29	じんこうおよそにまんにん しょうこうぎやう さかん 人口凡二万人 商工業は盛にて ちゆうがっこう じやがっこう いす 中学校に女学校 何れも此処におかれたり
13	ひがし なが きそがわ そのみなもと しの 東を流るる木曾川は 其源は信濃にて なが おうおつ さんしゆう こり いせ かわ 長さはおよそ三十五里 伊勢の海へと注ぐなり	30	ひがし あた すのまた すのまたがわ きし 東に方れる墨俣は 墨俣川の岸にあり げんべいらい せいちろ せいちろ 源平以来の戦地にて 一夜城址も此処と聞く
14	せいなんにり たけ はな ここの じまめいさんち 西南二里に竹が鼻 此処は美濃縞名産地 ながたさきち あと へた たかすまち 永田佐吉の跡もあり 四里隔たりて高須町	31	きた すす ごうどまち そのまちはば ひろ 北に進めば神戸町 其街幅の広ければ ひみこうせ とな たかすまち いせき 広神戸とも唱へられ 伝教大師の遺跡あり
15	このちかいづ ちゆうぶ まつだいらし きゆうじようか 此処海津の中部にて 松平氏の旧城下 にし なが いびがわ せいとうちほう うるお 西を流るる揖斐川は 西濃地方を潤せり	32	ごうど い にしきた いそ ここの いびごおり 神戸を出でて西北へ 急げば此処は揖斐郡 ちや さんち いけだむら にし み がまがたに 茶の産地なる池田村 西に見ゆるは霞間が谷
16	いびきそながら さんたいが いず このち ごうりゆう 揖斐木曾長良の三大河 何れも此処に合流し なつ おうおつ そのせんがい かつ な 夏は往々あふれいで 其損害は数しれず	33	きた すす いびがわ わた さんしゆうざん いびまち 北に進みて揖斐川を 渡ればすぐに揖斐の町 これ きた やまおお すみ さんしゆうざん 是より北は山多く 炭の産出盛なり
17	しか めいじにじゆうねん こうじいよいよはじ 然るに明治二十年 工事愈始まりて かんみんきやうどうじんりやく さんせんぶんりゆうすて な 官民共同尽力し 三川分流既に成る	34	とうほくにりまけごんじ さいごくじゆんれいはいしよ 東北二里余華嚴寺は 西国巡礼拝所にて おや たの ぬ おさ たにくみさん 親と頼みしおひづるを 脱ぎて納むる谷汲山

岐阜県地理唱歌歌詞（35番～66番）

35	おおの す とうなん いとぬきがわ わた 大野を過ぎて東南に 糸貫川を渡りなば こ こ もとす きたかたちよう 糸ほうたいし あと 此処は本巢の北方町 弘法大師の跡もあり	52	にりへだ ときつまち とうきがっこう もうけ 二里隔たりて土岐津町 陶器学校の設あり これ ひがしみちはちり いそ きん いわむらちよう 是より東路八里 急げば恵那郡岩村町
36	まくわ うり めいさんち もんじゆ こめ な たか 真桑は甜瓜の名産地 文殊は米の名に高し いとぬきがわ じようりゆう のうひしん みなもと 糸貫川の上 流は 濃飛地震の源ぞ	53	まつだいらし じようか さとういちさいしゆつしんち 松平氏の城下にて 佐藤一齋出身地 あけち まち にしみなみ きいとーり きんしゆつ 明知の町は西南 生糸小鳥を産出す
37	ひがし むか やまがたくん たかとみまち きゆうじようか 東に向へは山県郡 高富町は旧城下 ほんぐん かみきいと たたみおもて きんしゆつ 本郡よりは紙生糸 畳表を産出す	54	いわむらい きた より やまじこゆ おおいまち 岩村出でて北へ四里 山路越ゆれば大井町 はし へだ おさしまちよう じゆうさんとうげ にし 橋を隔てて長島町 十三峠は西にあり
38	ぐん さかい ながらがわ ひがし わた わぎごおり 郡の境は長良川 東に渡れば武儀郡 こがねたす せきまち はものうちものよ 小金田過ぎて関町は 刃物打物世に名あり	55	ひがし すす なかつまち つ 東をさして進みゆき 中津町にぞ着きにける こ こ せいし たか 此処は製紙の名も高く 鯉の産出亦多し
39	ひ だかいどう すす すがた とうほくはちり 飛騨街道を進みゆき 菅田は東北八里にて いちりきた かなやま き くにさかい 一里北なる金山は 美濃と飛騨との国境	56	とうなんたか え な たけ あと 東南高くそびえたる 恵那が岳をば後にして きた むか なみきまち すいしろうせきな たか 北に向へば苗木町 水晶宝石名は高し
40	せき きた にりい とうづちまち つ 関より北へ二里行けば 上有知町に着きにけり に な がら がわ ひんせん き おうらい 西に流るる長良川 便船岐阜に往来す	57	ぐん ほくぶ つちまち りようざいおお きんしゆつ 郡の北部の付知町 良材多く産出す こ こ せいし たか 是より北に進みゆき 飛騨の国にぞ入りにける
41	がわ わた いちりにし おやだむら もやま 川を渡りて一里西 大矢田村に喪山あり こ こ かみよ いせき ながめ 此処は神代の遺跡にて 秋の紅葉の眺よし	58	ましたごおり げろむら おんせん きやくた 益田郡の下呂村は 温泉ありて客絶えず はきわのまち きた にり けいしろうさんさかん 萩原町は北へ二里 此地養蚕盛なり
42	いたどりがわ ままだにちほう むかし 板取川をさかのぼり 牧谷地方は昔より せいし わさ さかん みのがみおお こ い 製紙の業は盛にて 美濃紙多くは此処に出づ	59	おさかまち す きた すす おおのぐん 小坂町をも過ぎゆきて 北へ進めば大野郡 ひだり み くらいやま こ こ りようざい おお 左に見ゆる位山 此処には良材いと多し
43	こうづちまち すはらへ ぐじよう すす 上有知町より州原経て 郡上街道進みなば はちじようぐん ばちまんまち はちり やがて入るなり郡上郡 八幡町へは八里なり	60	みなしじんじや さんばい たかやままち つ 水無神社も参拝し 高山町に着きにけり こ こ せいし たか 此処は岐阜より三十余里 飛騨第一の大都会
44	へきち とかい あおやまうじ きゆうじようか 僻地にまれなる都会にて 青山氏の旧城下 でんとうがいしやもう せいし わさ さかん 電灯会社設けられ 製紙の業も盛なり	61	やま しめん と みやがわまち つらぬ 山は四面を取りかこみ 宮川街を貫けり しやうこうきやう さかん じんこう に まんにん 商工業は盛にて 人口ほとんど二万人
45	おくみようがた きた へり はたきこうざん こ こ 奥明方は北へ五里 畑佐鉾山此処にあり ぎんどうえん きんしゆつ これ きた より へり 銀銅鉛を産出す 是より飛騨へは遠からず	62	こ こ なだか さんぶつ しゆんけいぬり きぬつむぎ 此処に名高き産物は 春慶塗や絹紬 いち いさいく び たちゆうが 一位細工もおもしろく 斐太中学もおかれたり
46	また みなみ た かえ こうづちせき す 又も南に立ち帰り 上有知関を過ぎゆけば な な がら がわ ひんせん き おうらい やがて入りけり加茂郡 太田町へぞ着きにける	63	きた すす よしきぐん ふるかわちよう たちよ 北へ進めば吉城郡 古川町へも立寄りて こ こ せいし たか 是より北へ四里ゆけば 船津町にぞ着きにける
47	なかせんどう こ こ す きそがわみなみ なが 中仙道は此処を過ぎ 木曾川南を流れたり きた あた はちやわら な かき さんろ 北に方れる峰屋村 名に負ふ柿の産地なり	64	みやま なか いちとかい ぎんどうえん ほ いだ 深山の中の一都会 銀銅鉛を掘り出す かみおかこうざん な たか きた ちやま ほじちが 神岡鉾山名も高く 北は富山に程近し
48	ひだ がわ す みちさんり やおつまち たちよ 飛騨川過ぎて路三里 八百津町へも立寄りて みなみ いづ かにこおり みたけまち ほじちが 南に出づれば可児郡 御嵩町へは程近し	65	せかいいさん しらかわごう がつしやうづく 世界遺産の白川郷 合掌造りのたたずまい みなみ いづ かにこおり みたけまち ほじちが どぶろく祭に鼓代神 村人伝えいつまでも
49	とうのうちゆうがく こ こ ことり おお きんしゆつ 東濃中 学此処にあり 小鳥を多く産出す にし むか かねやまちよう みなみ ゆ くりむら 西に向へば兼山町 南に行けば久々里村	66	なが たびじ その み き こと ひとはし 長き旅路の其うちに 見聞きし事の一端を うた わがきふけん ちりしやうか 唱うふしきへおもしろや 我岐阜県の地理唱歌
50	くくり みや こせき けつきま あと またおお 泳の宮の古跡あり 穴居の跡も亦多し とよおかまち けいさいさん けいたいゆうすいながめ 豊岡町には虎溪山 境内幽邃眺よし		
51	ひがし とな ときごおり ときかわがし たじみまち 東に隣るは土岐郡 土岐川岸の多治見町 とうせいさうさかん な こ屋 に出づる鉄路あり		